

# 「自然との共存 茅葺きの家」

越谷市教育委員会

## 減っていく茅葺きだけど・・・



エコウィーク、今回は茅葺き屋根だね。今ではすっかり見られなくなったね。

既読

既読

茅を葺く作業は大変だし、今はもっと安価で作業しやすく、また火にも強いスレートを葺くことが多いよ。でも、茅葺き屋根って、今や意味がないものなのかなあ。



茅葺きが激減したってことは、もう役に立たないのでは・・・？  
維持、管理するのも大変らしいよ。

既読

既読

その結論は茅葺き屋根のことをもっと知ってからにして、展示パネルを見てみましょう。  
(このプリント資料には、パネルで紹介できなかったことをお伝えします。)



## 茅葺き屋根の耐用年数

屋根全体の総葺き替えは、およそ30年ごとと言われていています。つまり一世代に1回ということですよ。特に傷みの激しい箇所はその部分だけ、10年に1回ほどの割合で茅の差し替えをしました。

当館が旧見田方遺跡公園に移築された後、昭和62年(1987年)に行った総葺き替えの費用総額は600万円くらいでした。今ならその5～7倍くらいするようです。

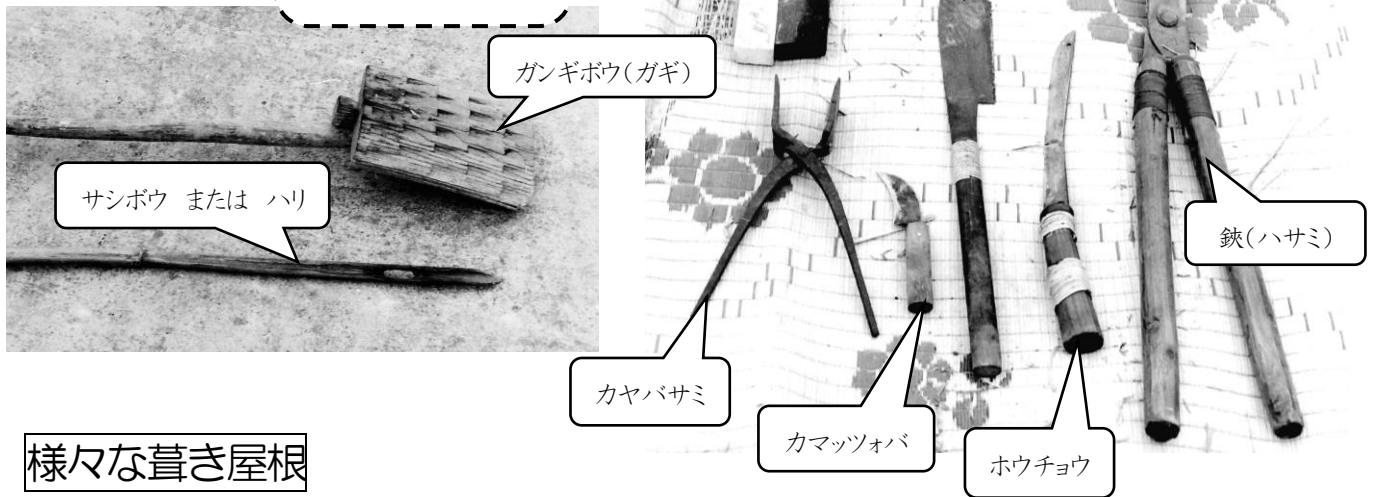
## 葺き替えは共同作業

葺き替えはその家の人だけでは到底できないので、専門の職人さんと地域の人々による共同作業でした。中世以降、村には“結(ゆい)”という共同作業の組織がありました。生産活動や行事、冠婚葬祭、災害からの復旧などは結によって行われてきました。



## 茅葺きの道具

これらの一部が旧東方村中村家住宅の土間脇の道具置場にあり  
ます。



## 様々な葺き屋根

瓦葺きや茅葺き以外の伝統的な屋根を紹介します。

### 【板葺き屋根】

茅葺き屋根以外の屋根には、下に板が張ってあり(野地板)、その上に葺く材を載せますが、板のままの屋根もあります。また板の上に木羽(木端)という薄い木片や杉皮などを葺いて、石で抑える石屋根もあります。

### 【柿<sup>こけら</sup>葺き】

ヒノキや杉などの薄い木片を葺いた屋根です。竹の釘で止めます。

### 【檜<sup>ひわだ</sup>皮葺き】

ヒノキの樹皮を細く裂いたもので葺いた屋根です。宮殿や神社に多く見られます。



コバトン

産業が発達して、私達の生活は便利で快適になった点多いけれど、失ったもの、失おうとするものもあるんだね。  
古くなって減ってしまったからといって、人や社会にとって無用のものになったということではないんだなあ。

既読

それらの中には現在や将来にとって大切なこともあるよね。古民家を保存していくと、そういう大切な事は何かということを検証できるんだ。最近、SDGsということを時々聞くけれど、茅葺き屋根、古民家からそのヒントを覚えてもらえると思うよ。

既読



### 【参考文献】

- 『埼玉県の民家』(埼玉県教育委員会 昭和47年)
- 『埼玉の草屋根葺き』(埼玉県立民俗文化センター 1997年)
- 『越谷市草葺民家調査報告』(日本工業大学建築史研究室 昭和62年)
- 『図説民俗建築大事典』(柏書房) 等